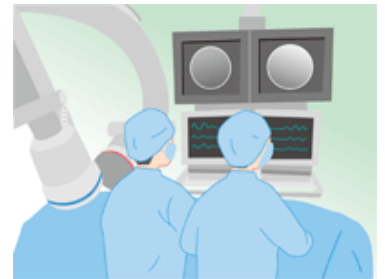




# カテーテル アブレーション 心筋焼灼術



今回は循環器疾患、特に不整脈疾患について取り上げたいと思います。不整脈疾患は主に徐脈性不整脈、頻脈性不整脈に分類されます。徐脈性不整脈は、薬剤性や電解質異常など二次性のものを除けば、ペースメーカーの植え込みが治療の中心になります。一方頻脈性不整脈には薬物療法と非薬物療法があります。

近年、頻脈性不整脈に対する非薬物治療は目覚ましく進歩しています。その代表がカテーテルアブレーション（心筋焼灼術）です。当院でも頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に行なうようになりました。対象疾患は心房細動（発作性、持続性）、発作性上室頻拍、心房粗動、心房頻拍、心室頻拍（心室性期外収縮）などが主なものになります。

そもそもカテーテルアブレーションとはどのような治療なのでしょうか？ご存知の通り、心臓は電気信号で動いていますが、頻脈性不整脈は主に三つの成り立ちがあります。一つは正常の伝導路以外のところで電気回路を形成し、その回路内で電気信号がぐるぐる回っているもの（reentry）。二つ目は異常な部位からの電気興奮の出現（abnormal automaticity）、三つめはある活動電位がきっかけで異常興奮が出現するもの（triggered activity）です。少しややこしい話になりましたが、カテーテルアブレーションは心筋に熱を加えることで、電気回路の遮断（図1）、異常な電気興奮部位の焼灼（図2）、または異常な電気興奮が心臓内に入らないようにラインを作成すること（図3）です。

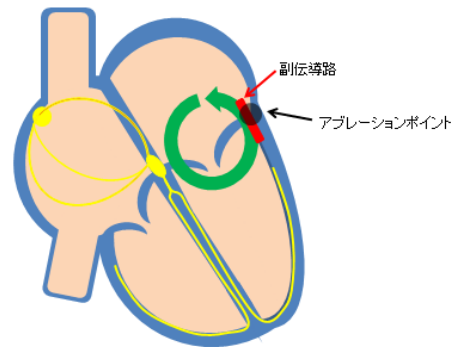


図1 電気回路の遮断 (WPW 症候群のアブレーション)

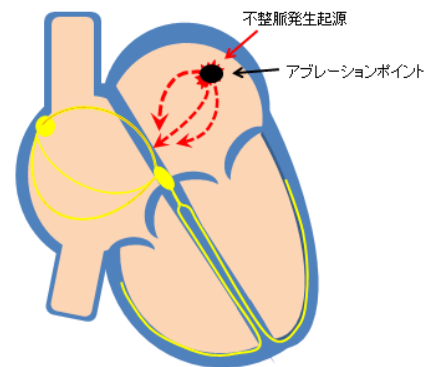


図2 異常な電気興奮部位の焼灼 (Focal ATのアブレーション)

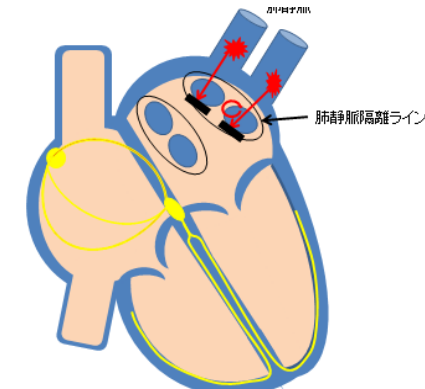


図3 電気興奮が入らないようにラインを作成 (心房細動のアブレーション)

当院でのカテーテルアブレーションの件数の推移を表（次ページ）に示します。おかげさまで年々件数は増加しており、現在は週2件程度行っています。症例の多くは心房細動です。心房細動は脳梗塞を発症することがある不整脈と知られていますが、心不全発症や予後悪化因子となることが明らかになっています。最近の報告ではカテーテルアブレーションにより洞調律が維持できれば脳梗塞や死亡率が減らせるといった報告がなされ、心房細動に対するカテーテルアブレーションは全国的に増加の一途をたどっています。当院の心房細動アブレーションにおける取り組みとして、2018年2月から麻酔科医の協力のもと、全身麻酔を導入しました。従来は静脈麻酔で行なっていましたが、麻酔深度が浅いと焼灼による痛みで体動が起こり、心タンポナーデなどの合併症を起こしてしまうリスクがあります。また麻酔深度を深くすると呼吸抑制が起こってしまい、呼吸停止のリスクがあります。

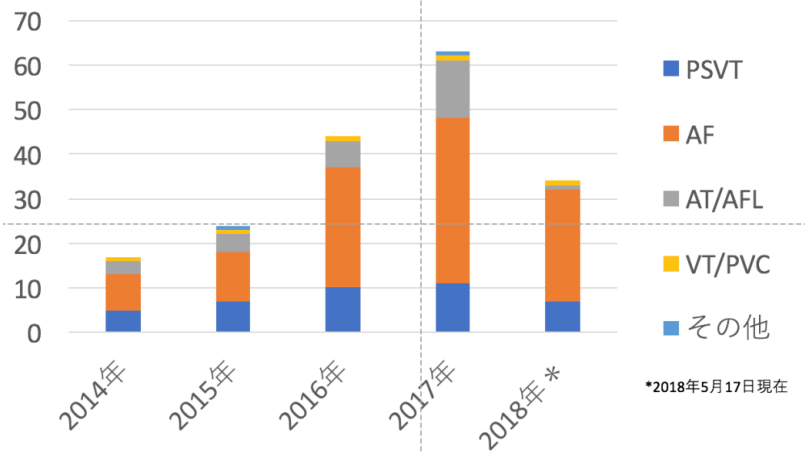
患者様の苦痛緩和や手技の安全性を考慮した上で、全身麻酔を導入しました。全身麻酔というと仰々しく感じてしまうかもしれませんが、実際はカテ室で抜管し、従来の方法よりも速やかに覚醒しています。また全身麻酔導入後は手技時間の短縮も図れています。今後はバルーンによるクライオアブレーション（冷凍凝固）を取り入れ、最新の治療が提供できるようにと考えています。

最後になりましたが、当院は2017年4月から日本不整脈心電学会の認定不整脈専門医研修施設となりました。不整脈疾患でお困りの方、アブレーションの適応はどうだろうと思われる方、心電図異常があり心臓の精査を行いたい方など、どのようなことでも結構ですので、そのような方が

いらっしゃる場合は、いつでも外来紹介や電話連絡をいただければと思います。

循環器内科 小谷 健

当院でのカテーテルアブレーション件数



## 第5回

# 地域医療連携の会

(懇親会)

6月16日(土) 17時～ 舞子ピラ

特別講師 垂水区医師会長 中村 治正 先生 (なかむらクリニック院長)

演 題 【垂水区における多職種連携の取り組み】

院内発表 循環器内科・形成外科・脳神経外科

尚、講演終了後、19時より懇親会を予定しておりますので宜しくお願いいたします。

参加費無料 医療従事者の方々のご出席をお待ちしております。

# 認定看護師より

神戸救済合病院  
には6名(5分野)の  
認定看護師が  
在籍しています。



## 皮膚・排泄ケア認定看護師

池田 未央

WOCとは、Wound：創傷、Ostomy：ストーマ、Continenace：失禁を表しています。ストーマケアや褥瘡・創傷処置及びアセスメントをすることに活動時間を多く費やしています。当院では医師の協力を得て他院で手術をされたオストメイト(ストーマ保有者)の受け入れも行っていきます。(外科、泌尿器科)もしケアで困っている患者さんが希望されればお役に立てるかもしれません。その際は予約制になっていますのでご協力を宜しくお願い致します。

## 感染管理認定看護師

田口 菊久子

感染管理認定看護師は、院内に関する全ての人々に

対し、医療関連感染の予防と管理を担う役割であります。そのため、感染管理組織・システムの構築、医療関連感染サーベイランスの実践、効果的な感染予防技術の実践と促進、感染予防の教育、職業感染予防、感染問題に関する相談と問題解決に向けた支援の実践、ファシリティ・マネージメントの推進などソフト面・ハード面の感染管理を行います。

対外的には、保健所様との連携や、他の医療機関で発生した感染問題のご相談をお受けし、問題解決のお役に立てるよう取り組みを行っています。

近年、市中感染型耐性菌なども問題なっていますので、地域の皆様と連携しながら、市中感染に関する地域の問題を共有できればと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

## 集中ケア認定看護師

芝本 理恵

集中ケア認定看護師とは、生命の危機状態にある患者さんとその家族に対して、患者さんのもてる力を最大限に発揮し、生命の尊厳とQOL維持をはかることを目標に、看護を実践・提供する看護師です。

院内ではICUに所属し、患者さん家族への看護の実

践とスタッフ指導を行っております。また、呼吸ケアサポートチームで、多職種協働による呼吸ケアの充実と改善、事故防止対策、リンクナースの育成を行っています。

フィジカルアセスメントの研修会や、困難事例での看護リフレクション、呼吸ケアに対する悩みなど、ご要望があれば、一緒に解決に向けて取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

## がん化学療法看護認定看護師

吉村 千春

がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法を受ける患者さん・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護の実践を行うことが出来るよう活動しています。また、抗がん剤の投与管理、副作用対策を安全かつ適正に行っています。

がんと診断された患者さんへがんを受容し、共に闘うことが出

来るよう精神的なサポートや情報提供を行っています。

がん患者さんは、今後増加することが予測されます。がん患者さんのサポートチームを作り、入院と外来が繋がり、継続した看護が実践できるよう活動したいと考えております。がん患者さんへの対応や情報提供など、お困りのことがあれば、患者さんにとってより良い方法を一緒に考えることが出来ればと思っています。

宜しくお願い致します。

## 救急看護認定看護師

立助 恵子

当院は、地域の救急医療の中核病院として、年々救急搬送件数が増加しています。その中で患者さんの安全・安楽を考えた看護を目指して、実践・指導しながら働いています。

垂水区は高齢化率 28.7% (全国平均は 26.6%) であり、特に高齢者が多い地域です。そして、さまざまな状況におかれている患者さんが来院されます。高齢者が住み慣れた地域で生活している「地域包括ケアシステム」が整っていく中で、私たち急性期病院看護師の役割はとて大きいと感じています。「本当に帰れるのだろうか？」と社会的なアセスメントを行い、状況によっては関係部署と連携できるように心がけています。

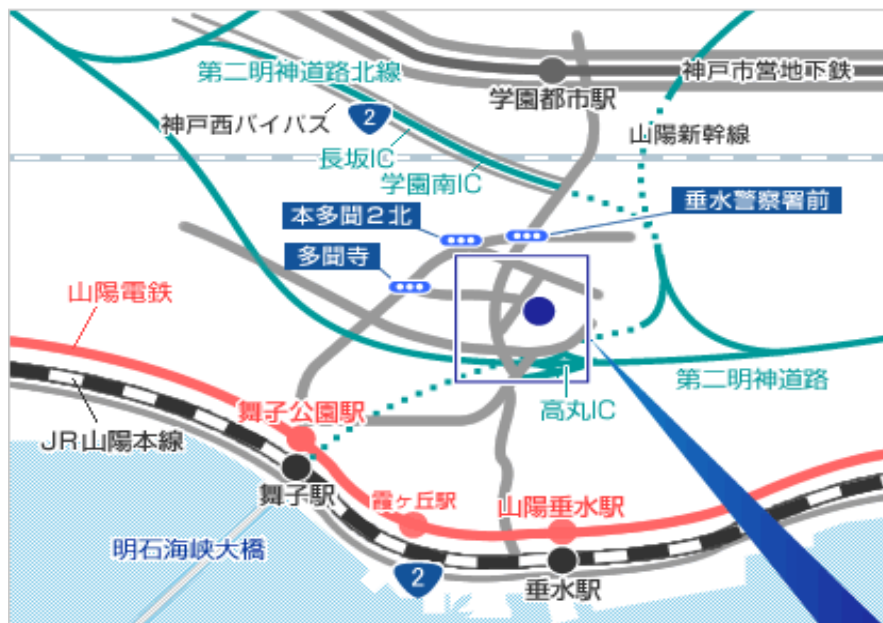
また、当院では院内外の医療従事者を対象にICLS(二次救命処置)コースを開催しています。「明るく・楽しく・元気よく」をモットーにしながら、急変時の対応に自信が持てるようコースを開催しています。興味のある方は、ぜひご参加ください!!

## 皮膚・排泄ケア認定看護師

川村 三代

私は1998年にWOCの資格を取得しました。ストーマ外来を開設するとともに、垂水区周辺地域の施設や訪問看護ステーションの皆様と連携しながら、オストミーケア・褥瘡ケアを中心に活動してまいりました。2010年に赴任した池田未央WOCに役割を委譲し、現在は、院内に5名いる認定看護師の活動に関する相談に乗っています。どの分野の認定看護師も、院内だけでなく地域で暮らす患者様やそれをサポートする医療従事者の方々と連携を取ながら、より質の高いケアが提供できるよう日々奮闘しております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。





周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約12分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約20分

【JR垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約20分



〒655-0004

神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号

TEL : 078-781-7811 (代表)

FAX : 078-781-1511

<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>